



園だより

第 8 号

令和元年 11 月 26 日

駿河台大学第一幼稚園

園 長 田所 恒子

挨拶は、コミュニケーションの第一歩

思わず肩をすぼめてしまう北風に、冬の訪れを感じる今日この頃です。間もなく二学期最後の月、師走を迎えます。先日行われた保育参観では、一学期に比べぐっと成長したお子様の姿をご覧いただけたことと思います。これから始まる個人面談を通して、担任と保護者の方が、お子様の成長や今後の指導について話し合い、共にお子様を育てていく関係をさらに深めていきたいと思っています。



9日の「お父さんと遊ぼう会」では130人以上のお父さんが様々な遊びのコーナーで子どもたちと遊んでくださいました。ありがとうございました。

11日、年長児は、小金井公園で様々な遊びをして園外保育を楽しみました。中でも、そり滑りはスリル感もありとても楽しいものでした。園から持参したそりを活用して坂を滑り、階段を駆け上がっては、繰り返し楽しんでいました。そりの交代を手助けしていた植田運転手が「そりを手渡すと、必ず“ありがとう”と言ってくれる子どもがいてとても嬉しかった」と話してくれました。何かをしてもらったら、“ありがとう”という挨拶を自然に返せることは、とても素敵です。「ありがとう」をはじめとする様々な挨拶は、相手に心を開かせ、人間関係をスムーズにさせるコミュニケーションの第一歩です。情報通信技術の発達が多様な変化をもたらし、予測不能ともいえる時代を生きぬく子どもたちであるからこそ普遍である挨拶は、人間として生きるための大切な能力となります。



大きな斜面を滑り降りるそり滑りはスリル満点です。友達とそりを交代して繰り返し繰り返し遊びました。

しかし、一学期では、登園時に「おはよう」と挨拶しても「おはよう」が返ってこない子どもの姿がかなり見られました。そこで、二学期の始業式に気持ちのよい挨拶をすることの大切さを伝えました。そして、相手の顔を見て、元気よく「おはようございます」と挨拶し、頭を下げることを具体的に伝え、気持ちのよい朝の挨拶をしようと指導しました。二学期の後半を迎え、多くの子どもが気持ちのよい挨拶ができるようになってきました。すると、挨拶ができるようになった子どもたちに、友達と元気いっぱい遊ぶ姿が目立つようになってきたのです。玄関で園長と挨拶を交わせたという自信や、朝から気持ちのよい挨拶をして心地よくなり活力がわいたことも大きな要因だったのでしょう。そのことが友達とコミュニケーションを図って遊ぶことにつながっていったのです。朝の挨拶一つでもこれだけの力になります。



朝、きちんと挨拶するととても気持ちよく一日が過ごせます。挨拶の習慣をこれからも大切にしていきたいと思っています。

本園では、挨拶の大切さを重視した指導を行っています。「おはようございます」「いただきます」「行ってきます」「おやすみなさい」「ありがとう」「ごめんなさい」など、場面に応じた様々な挨拶があること、それを交わすことにより、先生や友達と一緒に心地よく過ごすことができることに気づいて欲しいと思っています。挨拶は、日常的な場面で交わす中で身に付きます。ご家庭でも、その時々にあった挨拶を交わしたり、何かをしてもらったら「ありがとう」とお礼を言ったりすることを、保護者の方が見本を示し、教えていただきたいと思います。幼稚園と家庭が力を合わせて、豊かなコミュニケーション能力をもった子どもを育てていきましょう。

また、登・降園の際、保護者の皆様も是非お子様と一緒に「おはようございます」「さようなら」の挨拶をしていただければと思います。職員室の前をお通りになる際には、是非、教職員に一声お声をかけていただきますようお願いいたします。挨拶を交わしながら保護者の皆様とのコミュニケーションを豊かにし、共にお子様を育てていく関係をさらに深めていきたいと思っています。



年長児がポップコーン屋を開きました。年少・中児と「いらっしゃい。いらっしゃい」「ポップコーンはいかがですか」「ありがとうございます」そんな挨拶を交しながら一緒に楽しんでいました。